



©Kobe 2024/WPA

神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会に関する調査報告書

ダイバーシティ エクイティ インクルージョン

パラスポーツ イベントを契機とした **DE&I** の創出

神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会
大会調査プロジェクトチーム



神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会を契機としたダイ

調査概要

1 調査方法

- ▶ 調査大会 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会
- ▶ 調査対象者 観戦者、選手・関係者、ボランティア（17歳以上）
- ▶ 調査場所 総合運動公園ユニバー記念競技場、オンライン
- ▶ 調査日 対 面：2024年5月17日～ 5月25日（観戦者/選手・関係者）
メール：2024年6月7日～ 6月21日（選手・関係者/ボランティア）
- ▶ 調査方法
- ・スタジアム内において、QRコードを用いたアンケート調査を実施しました。自身で回答が難しい場合は、調査員がタブレットを用意し、回答のサポートを行いました。対象者は観戦者、選手・関係者でした。選手・関係者については英語版のアンケートを作成し、大会後のオンライン調査を併用しました。
 - ・大会終了後、実行委員会事務局を通じ、電子メールによる調査依頼とウェブページのURLを送付し、オンライン調査を行いました。調査用のウェブページはGoogleフォームを用いてました。対象者は選手・関係者、ボランティアでした。なお、選手・関係者については、各国選手団に対して送付を行いました。

- ▶ 回収数 計回収数 3,110 票、有効回答数 2,885 票（有効回答率：92.8%）

観戦者	回収数 1,957 票 / 有効回答数 1,764 票（有効回答率 90.1%）
選手・関係者	555 票 / 有効回答数 555 票（有効回答率 100.0%）
ボランティア	回収数 598 票 / 有効回答数 566 票（有効回答率 94.6%）

2 研究組織

▶ プロジェクトチームメンバー

研究代表者：青山 将己（流通科学大学人間社会学部 専任講師）
副代表者：山口 志郎（流通科学大学人間社会学部 教授）
遠藤 華英（同志社大学スポーツ健康科学部 助教）

▶ 連絡先

流通科学大学人間社会学部
神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会
大会調査プロジェクトチーム

〒651-2188 兵庫県神戸市西区学園西町3丁目1番
青山将己研究室 E-mail：Masaki_Aoyama@red.umds.ac.jp



バーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の創出

3 大会の概要

- ▶ 大会名称 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会
(英語名称: KOBE 2024 PARA ATHLETICS WORLD CHAMPIONSHIPS)

- ▶ 開催時期 2024年5月17日(金)～25日(土)
モーニングセッション9:00-12:00/イブニングセッション17:00-20:00

- ▶ 競技会場 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

- ▶ 競技種目 168種目 (男子92種目、女子75種目、混合1種目)

- ▶ 参画者数 参加者数: ①選手団 104か国・地域 1,978人 (うち選手1,073人)
②メディア 17か国 385人

- 観客者数: 84,004人 (うち学校観戦 28,249人)

- ボランティア数: 1,567人



4 調査内容について -DE&I-

? DE&I (Diversity, Equity & Inclusion) とは？

DE&I(Diversity, Equity & Inclusion)は、「多様性の尊重と公平な機会の提供を通じて、誰もが平等に参加できる環境を作る」という概念です。2020年頃から、主に組織経営の分野で世界的なトレンドとなっています。D&IやI&E、ED&Iなども散見されますが、基本的に同じ志向をもった概念です。最近では組織経営のみならず、社会や教育、地域コミュニティ、政策レベル、そしてスポーツの分野でも、重要な概念として扱われるようになっていきます。スポーツ界においては、特にスポーツイベントの開催意義や価値として、DE&Iが取り上げられる傾向にあります。

D Diversity (多様性)

パラスポーツイベントを通じて、すべての人が年齢や性別、民族、宗教、疾病、性自認、性的指向、教育、国籍、言語、障害の有無等の違いを尊重することへの知覚

E Equity (公正性)

パラスポーツイベントを通じて、すべての人に情報や機会、リソースへのアクセスが中立に保障されていることへの知覚

I Inclusion (包摂性)

パラスポーツイベントを通じて、すべての人が歓迎され、尊重され、支援され、評価され、一人ひとりが個性を発揮し、活躍できる状態

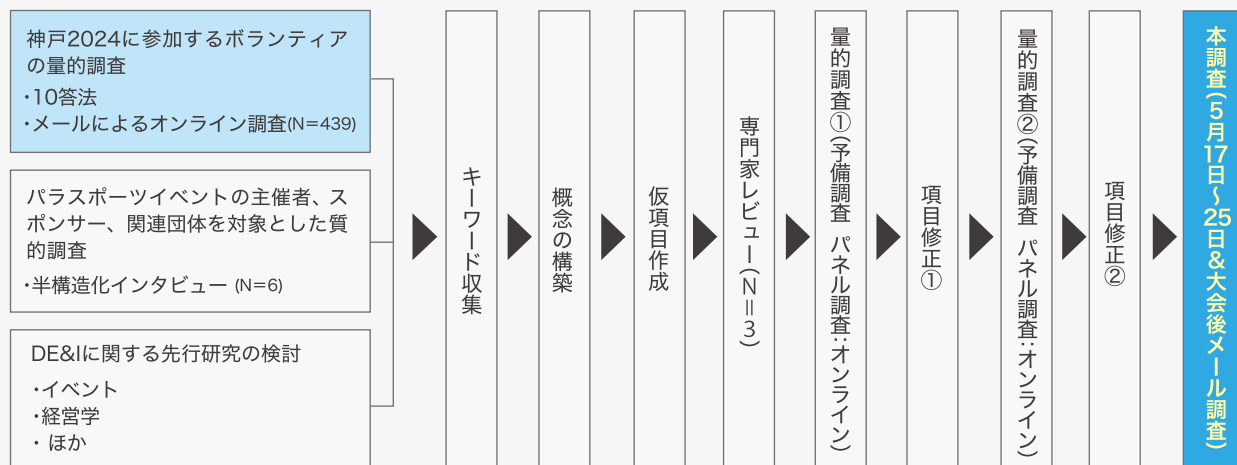
DE&Iを数値化する

DE&Iは「社会効果」のひとつとして捉えることができます。しかし、DE&Iは歴史の浅い概念であることから、数値化し、効果を測定するまでには至っていませんでした。また、パラスポーツイベントをはじめ、スポーツイベントが多様な背景や価値観をもつ人々の「社会的地位向上」にどのように寄与しているかは十分に解明されていません。そこで、パラスポーツイベントによって創出される社会効果の測定指標として、DE&Iの測定尺度を開発しました。

DE&I型向社会的行動

DE&I尺度に付随して、DE&I型向社会的行動の尺度開発にも着手しました。また、DE&Iの結果要因として検証可能です。向社会的行動とは、「何らかの外的な報酬を期待せず、自由な意思によって他の個人や集団に恩恵を与えるような、他者の利益を意図した自発的な行動」と定義されています。パラスポーツイベント(スポーツイベント)への参画によって、どのような向社会的行動が促進されるのか、DE&Iの概念に近い内容として測定可能です。

尺度開発の手続き



本調査(5月17日～25日&大会後メール調査)

個人的属性

性別でみると、観戦者は「女性」が56.0% (987人)、選手・関係者は「男性」が56.2% (312人)、ボランティアは「女性」が59.7% (338人)と最多でした。年代でみると、観戦者は「50代」が21.6% (381人)、選手・関係者は「20代・30代」が24.2% (134人)、ボランティアは「50代」が35.0% (198人)と最多でした。

個人的属性		観戦者		選手・関係者		ボランティア	
		n	%	n	%	n	%
性別	男性	746	42.3	312	56.2	218	38.5
	女性	987	56.0	236	42.5	338	59.7
	その他	6	0.3	1	0.2	2	0.4
	未回答	25	1.4	6	1.1	8	1.4
年代	10代	48	2.7	7	1.3	12	2.1
	20代	281	15.9	134	24.2	23	4.1
	30代	259	14.7	134	24.2	25	4.4
	40代	396	22.5	117	21.1	70	12.4
	50代	381	21.6	112	20.2	198	35.0
	60代	256	14.5	45	8.1	168	29.7
	70代	135	7.7	5	0.9	66	11.7
	80代	7	0.4	0	0.0	3	0.5
合計		1,764		555		566	

DE&Iに関する項目

DE&Iに関する項目について、「非常にあてはまる」を7点、「全くあてはまらない」を1点とし、平均値を算出しました。

7 非常にあてはまる	>	6 あてはまる	>	5 ややあてはまる	>	4 どちらでもない	>	3 ややあてはまらない	>	2 あてはまらない	>	1 全くあてはまらない
---------------	---	------------	---	--------------	---	--------------	---	----------------	---	--------------	---	----------------



Diversity (多様性)	平均値
神戸2024を通じて、個性は多種多様であると感じた	6.21
神戸2024を通じて、人には色々な価値観があると感じた	6.19
神戸2024を通じて、違いは人それぞれであると感じた	6.29
神戸2024を通じて、人と違うことは普通であると感じた	6.32
神戸2024を通じて、違いは個性であると感じた	6.25

因子ごとではDiversity (多様性)の平均が最も高い

項目の中で最も高い数値

Equity (公正性)	平均値
神戸2024を通じて、あらゆるサービスは、すべての人が利用するためであると感じた	6.16
神戸2024を通じて、個性を発揮することは、人に与えられた権利であると感じた	6.15
神戸2024を通じて、自立することは、人に与えられた権利であると感じた	6.23
神戸2024を通じて、中立な参加機会は、人に与えられた権利であると感じた	6.11
神戸2024を通じて、あらゆる情報は、すべての人が利用するためであると感じた	6.06

結果

因子ごとでは、

「Diversity (多様性)」が6.25と最も高く、次いで「Equity (公正性)」が6.14、「Inclusion (包摂性)」が5.90でした。

Inclusion (包摂性)	平均値
神戸2024を通じて、あらゆる人が思いやっていると感じた	6.00
神戸2024を通じて、あらゆる人が共に助け合っていると感じた	5.95
神戸2024を通じて、あらゆる人が寄り添っていると感じた	6.04
神戸2024を通じて、あらゆる人がつながりを認識していると感じた	5.97
神戸2024を通じて、あらゆる人がお互いを尊敬していると感じた	6.01

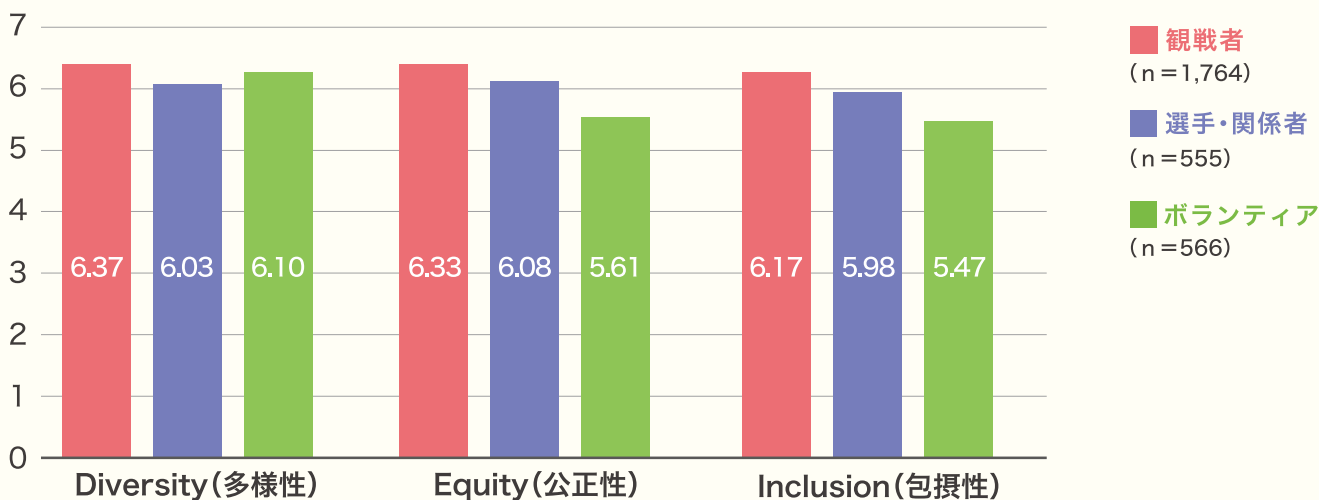
結果

項目ごとでは、

Diversity (多様性)の中の「人と違うことは普通であると感じた」(6.32)が最も高い平均値を示しました。

観戦者、選手・関係者、ボランティアの3群間で比較は次ページ

DE&Iの各項目を因子ごとに合成得点化し、観戦者、選手・関係者、ボランティアの3群間で比較しました。



結果

すべての項目で観戦者が最も高い平均値を示しました。観戦者は、DE&Iの概念をより強く認識していることが示唆されました。一方で、ボランティアは他の群よりも、Equity (公正性) と Inclusion (包摂性) の認識が弱い傾向にありました。

DE&I型向社会的行動

DE&I型向社会的行動について、「非常にあてはまる」を7点、「全くあてはまらない」を1点とし、平均値を算出しました。

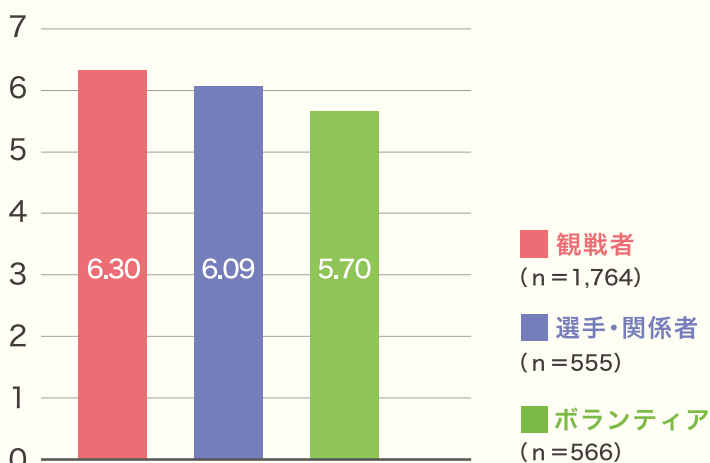
DE&Iに関する項目	平均値
困っている人がいたら他人を助けたい	6.38
あらゆる人とお互いに助け合って生きていきたい	6.32
他人の歩調に合わせて生きていきたい	5.75
異なる価値観を持つ人とコミュニケーションを取りたい	5.97

項目の中で最も高い平均値

結果

最も高い値となったのは、「困っている人がいたら他人を助けたい」(6.38)、次いで「あらゆる人とお互いに助け合って生きていきたい」(6.32)でした。

DE&I型向社会的行動の各項目を合成得点化し、観戦者、選手・関係者、ボランティアの3群間で比較しました。



結果

「観戦者」が6.30と最も高く、次いで「選手・関係者」が6.09、「ボランティア」が5.70でした。観戦者は神戸2024を通じて、向社会的行動の意識が高まったことが明らかになりました。

まとめ

神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会を通じて、参画者はDE&Iを強く認識し、向社会的行動への意識が高まったことが示唆されました。DE&Iに関しては、特に「Diversity(多様性)」に対する認識が顕著であることが明らかになりました。宗教や文化に配慮した飲食の提供や、車いす席の整備、バリアフリースイールの配置、ユニバーサルツーリズムの発信などを通し、障害だけでなく、年齢や性別、民族、宗教、国籍等の壁を越えて、“自立”する権利を創出することができた大会になったと考えられます。以下、参画者別の考察を述べます。

観戦者

観戦者は、選手・関係者やボランティアよりも、全てのDE&I因子において高い平均値を示しました。調査結果では、観戦者の9割以上がパラスポーツを始めて観戦した人々でした。この大会を通じて、パラスポーツに初めて触れたことで、気づきや感動、インスピレーションを得るとともに、DE&Iへの認識が深まるきっかけとなったと思われます。今後も、パラスポーツを「知る」、「考える」、「感じる」きっかけとして、「観戦経験」が非常に重要な役割を果たすと考えられます。

選手・関係者

選手・関係者は、観戦者やボランティアよりも、「Diversity(多様性)」の平均値が低い結果となりました。「Diversity(多様性)」に関連するキーワードには「個性」、「多種多様」、「価値観」、「違い」、「普通」などが挙げられます。選手・関係者は、普段の生活の中で自然に「Diversity(多様性)」を感じているため、大会において特別に意識することなく、それを当たり前のこととして受け取っていることが、このような結果につながったのではないかと考えられます。

ボランティア

ボランティアは、観戦者や選手・関係者よりも、「Equity(公正性)」と「Inclusion(包摂性)」の平均値が低い結果となりました。「Equity(公正性)」に関連するキーワードには「アクセス」があり、「Inclusion(包摂性)」の定義は「...状態」です。ボランティアはイベント組織内で活動しており、実際の業務や体験において、DE&Iに関連する「アクセス」や「状態」を享受しづらい環境であった可能性があります。また、ボランティアの部署は多岐にわたるため、選手と接すること機会が少ない部署も存在し、このような部署の違いがDE&Iへの意識の低さに影響を与えた要因と考えられます。



本調査は「大学発アーバンイノベーション神戸」の研究助成を基に実施しました。調査にご協力いただきましたすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会に関する調査報告書
パラスポーツイベントを契機とした
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）の創出

————— 2025 年 2 月発行 —————

編集・発行 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会 大会調査プロジェクトチーム

問い合わせ先 青山将己(研究代表者)
E-mail : Masaki_Aoyama@red.umds.ac.jp